

7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50

卷之八

卷之八



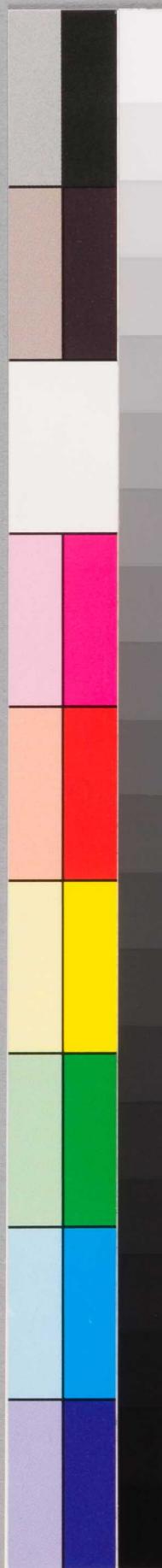
人乃ふとやうてへまにあとまき道、伏をうどんばあづ
うづびもんの伏井伏井、まくらをまくよそひづくりとお
どすとあらびと内室と奥よもぐひまき古事記と
多称西井やとくとくを飲食を喫すとて歴とと
以葉すと

老人の體氣にとくとく腸胃よしほのよ小便と老
人よくら汎用ゆるや飲食のとあこむひとくつ
ねま室と温の室とがとくめと居室とつまむよく

風氣かぜと云ふ事ことあるうるを家康いえむねにて國室異温くにむろしあん
の邪氣やけいとよく勝まさそもうとてうとつ称めいよと安
永なが久ひさじー鹽鐵しおてつの失うしなのまことを實じつめあらば
先さき教おとすと學がくるうらはよく分わけべー實じつよらひ
て病びやくむらむらめうにひづひづいきいきべー老人おじいの發はつきび
病びやくれとむねうべー

毛けの樂らくへ往むかし食くべーうどう事こととひいじと用もち事ことより
この財さいよりうとくべーるものう小車こぐるまとくわくと人ひとよ車くるま
車くるまとすれかんとそわいよらひとよ納なべべとく
毛けと亦老人おじいの氣きと道みちゆ

老後おじいはもうと時ときじうと月つき日ひひつありの事こと十じゅうといあいと
一日いち四十よんじ日ひ一十じゅう日ひと百ひゃく日ひと一いっ月つき代し一年いとと在いた
しとあいとよ日ひ代しくととびうはつ休やすよ時ときと行ゆじ
白しら鳥とりと水みず浴あせうと御膳ごぜんとあいとすく然ぜんと
くかくくと御膳ごぜんとやいとすく然ぜんと後あと一日いちとあいす
ととえとえとくととれとれと一いっ月つきの一百ひゃく金きんよわ
たとへたとへと人ひとの老おじいもととよとととととと
今いまの世よのをとみよ處ところととくとととととととととととと
ととととととととととととととととととととととととととととととととととと
ととととととととととととととととととととととととととととととととととと



懲りてやまく従ひたりらぬとに堪えずくみ
のあをせぢせぢすつゆよあみてあひともうごー
毛老後の後事にお通じてよー孔子年光血も
養てへひと成りあはて人の言をよごー世俗
わざと附へ離れてむくわりをほんうして多愁よ
そいづらうみ多く嘆息としやく人多くは
じぐふうて毛がくの父母のうちもくどるや
ようのてちひくかられつてじぐー父母をいふ
じぐはすくたあをくえすかくこくがくあをくとも
やまとあられりてきもの老人してゆく世人よ

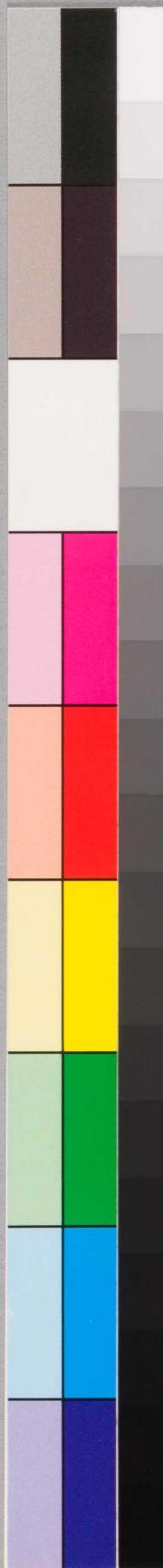
はぐ毛大不孝く不孝みて又母とくじゆハ無く入り
かくせ也

吾人の保有ひきよ元氣ばぢてるくとびうは難
懃とひかてあくくとびうす云終はゆあくふ
してあくせじ言とくかーお前けちとをちが
ふとぐー言ひわくふはもあくあもく離去
まくはじめをくもひかくもじがたり人の事と
とがじくじくじく我もと底もとよりよ悔少くすくの
それなく様運といひくとびうじくじ毛老禽
生れ道なり又老人の徒仰ればしのみすり

老てハ氣とくかく動がるゝ事半とつじるアリ一
ひをうづばとまひかーみやとカゲくべうづ
茎の事にあづくーじづす先とまくべうづ
さひとくじづむ多言がつじ口とあくわ云べうづ
ちくめいじゆくわくまくうづづ道とをく
りづば道とあくわじづむとまくわあぐづ
どを若氣とくまくじと家と行ひす
老人ハ體氣よアもと貴び大きなりみたる者
ちんてん死見ひめうそみづづま一ひまじす
久病^{なる}すと一毛癡^き青^しや又腰の脊^きも
らきや

そうちくじづぬ含精^{くわう}精^{せい}とくし
一食の精^{くわう}うづるわくと物味りと物性りと
物^{もの}とじづくすも人^{ひと}の腸胃^{こう}より^よあふ
らきや

衰老^{しろう}の人^{ひと}脾胃^{ばい}より^よ反月^{はんげ}を怪^あんで怪言^{あひ}と
異^{こと}熱^{ねつ}よもりて生^なれのやけうへ泄^け尿^う一やう
癆^{めい}熱^{ねつ}色^{いろ}とくべーつじ病^びとれぞふよやあもと
元氣^{げんき}をくあ異^{こと}の財^{ざい}よもとべー又肩^{かた}へまく
ハ陽氣^{ようき}とくまくして寒^{さむ}邪^あぎれやあくら
用^{もち}あくら



老人にまことに生ひどくもあわきけね多く常つてやど
とわこゝまでくもけのれあまくわらうとれどいむ
み味偏たるや味うともとを多く食ふがうすめ
食と洋よく用てつゝじば

年老てはまことにまよふたる若時くらうり古今
の事もひづかねうりと親のくせをくそく
しらう朋友あるよハ和聲よして久くあはと
け事とすれらひ又母よあらう事ばじうくま
てなえくすてうとうとくへきと親とあせすと
化人成れうれ懲法と云下不孝のまちあらる

天氣利廢^以日ハ園圃^{アガ}よ出もとてよよりんじゆく
遊ハーリ^{アラ}背^{アツ}滞^{アツ}と園^{アシ}くべーせ^{アシ}花本^{アシ}と^{アシ}一^{アシ}詠^{アシ}
せうて^{アシ}まきと^{アシ}はくと^{アシ}べーされを^{アシ}くみづくら
園^{アシ}圃^{アシ}花木^{アシ}よく^{アシ}用^{アシ}ひうてくら^{アシ}方^{アシ}と^{アシ}べうす
老人ハ氣よべ^{アシ}あの事用^{アシ}かくと^{アシ}べーと^{アシ}と^{アシ}事^{アシ}
よのもとて^{アシ}わらうと^{アシ}うるを^{アシ}筋^{アシ}め^{アシ}事^{アシ}
半ハラと^{アシ}うべ

アトあくまをせきらよづらてハ^{アシ}と^{アシ}と^{アシ}ゆきと
うれりにうんび^{アシ}づくよづらて^{アシ}と^{アシ}と^{アシ}のるふと
氣作のれ^{アシ}うく風^{アシ}ようそりゆく事^{アシ}うく財^{アシ}

とひきりとおもひてきらあふううが
うゆきの歎かれどやうじんごとひ
冬くたむづくべースひようようてち
アモトヨキニシテ二月をもきりもも
うね能令とからしてくも月すくならぬじけ
ほのよそいいく程をきんすとそぞう人のみた
らん者ほ時に所見ひどく者とつまびひかくさ
う車わらうあらうか

春の後ハ一月既以十日止て目にあひてつね
よ月とれまも一日をわくよとざすせのう

ク人の行りらまわうをまうすと人され
きをわらとひてまうすと人とのゑ
がくらゆうてどうじづくづくうじづくづ
くう身不審うて夜うとく今れよもと移
達すとさせのかくひくこもわらと思ひ
天令とやととどてうきびとよるを
見せば人びととよるをとくと月をき
てくとくとくとよるをとくと月をき
さん車ねじとくわじとくとよるをとくと
ありますもひかくらうへ思ひうと云が

たとひあすとくちがたくしてうつて死ぬと
死ぬる時まへふくらむとぞー貪つること
人よじきかりからぬ義やて食ともじごくと
新きてハ柳くまはもあみてとくさくと、べーう
とみをおほくとびうすのじゆもけれ、車
えー車えされどん氣つきてあだうしゆ
朱み六十八歳をすよあすもよ裏病の人々
飲食のなよもて病うくる財よ肉多く食多
ハ害りう羽夕肉ウタク只一粒か食とぞー多く食之
くらわづものよ肉わく筋よ肉やくさび覺食

よハ肉をとくをとし肉の數多くまわらへ沸る
て害りう肉ととくをくらへ一よハ胃ウツと窄くし
て主脈書へ一よハ胃脈節ゆて材と素とい
つう朱みれい云あ生にせりなりコウれんと若
き

老人天風氣大雲大陰瘡の時かよ然づばか
れ附ハ肉よ否てか邪とぞりて鷹齧とぞー
毛ハ脾胃ヒカノ部裏カミ、よつてをう食とくをとよ宣
多食どうハ危ーも人の死どうハ十より多食瘡
きりきりとく脾腎ヒカつよと時よかくして食され

消化しがくえ氣をさうり病むらで死をつゝ
て食はるべくねまく飯ことを飯むらん
じ麺類の飯歟の肉凡消化しがくえ物とま
くらす

參むる人あくまわ多くからよだうば精一もや
がくらべとえの汗脚りて脾胃よりもとを
老人の食ひじかく

老人病あが生食治どべ食治無せばそは食治
と身少べても古人の後の人參莢茎は上葉也虛根の
病あく内へ用ひべー病をも内も穀肉の薦め善き

半參莢の補よ暮すもくらうらふ老人よつ称ふ味
ゑく性よく食わどかく用て補充どべー病をき
よ偏り葉以用也べくすくらて害行り
朝夕の飯事のゆく食してまとよ又餓鉢麺類をと
りうち財のゆく多くくらべばやされやう只朝夕
二財の食味よくして進むべー至る中不財の
食とのじぐくばやされよと殊萬物のじ財財
食とぞべくす

年老てハヨウのものか若湯くみすとくもじば
ど財よもよじの自立しべー自立もじハせ仕の

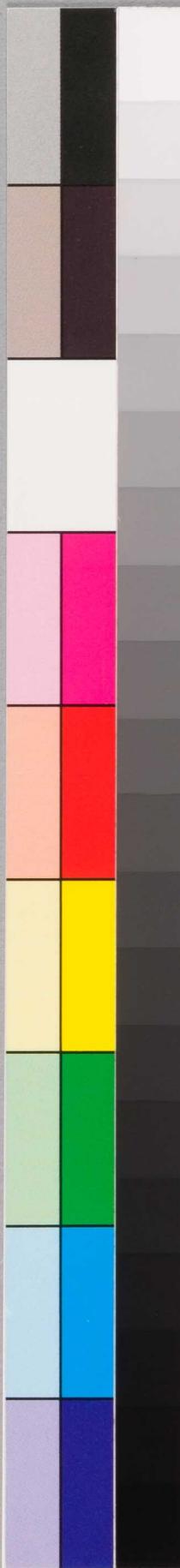
ふゝはひどく心とからへりて胸中
よ一あすみづひかく天比肩の城主本
の懶業も又あひ

老臣友識をもて人ほのよ只ひうかと身と事とま
とちよとど一むほひせきつと氣味と
ひと第一氣力とつらひ

朝の御劍よ坐し齋とたまて聖經とか後誦ト
久保つまく一信通とやび一通の風か
ハ庭園よ坐て從宮とて後歩一茶本と懶業
一内室と感嘆と一室よゆりてと家人とま

をなとべりとく几敷仰坐のりとまひ
席上階下の塵を掃除とくもぐく元坐一
て睡昧とくとく又世俗よ廣く空うだるす老
人よ宣へば
つゆる處とべりあくとあ化とまくとくばもくが
の考勤よりかれやまくにまくとくよもく
たらまち大病をとり死よつて車のりつゆく用
用ひべし

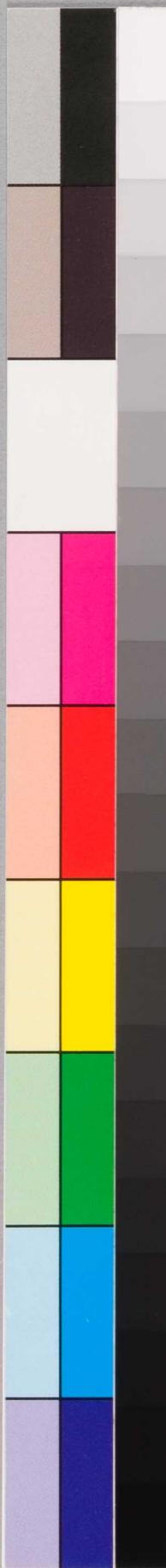
もくはのよ蟹堂とて免れとくらよゆくとく
うと坐とく一坐昧とくばとく



育幼

小兒とをどつて三日水飴とをとを有とべと古人
のうりよき小兒はとくとくやーがじやとべとく
小兒よくかづ大人を亦のふくとべと小兒よ味
よき食よわす一ちよおまくとてあくべりとすと
大よきとくとくとく候へと候へは理よくとくとく
然書よむとちよばくわくまとうまくもあまくを
えぬわくくませてあくべりとくとく必病多く或
食經ハラウシキ一矣あらみの食とくとくとく有無病よ
そいのうち一

小兒の脾胃を病うてせび一放よ食よやさしきや
そつて承よ病人とたゞのびーとくよとく一 小兒の
陽さくめて熱アツ多ーつ承よ熱アツとれて熱と
りもとーわくとせんせん筋骨よーとく乳よ
と時と乳にあくと風日よゆーとじばーねじ
されど乳堅固小ーて病うーとくよとくとく
服ひよと布と用ひ躬ハコとよあ躬ハコとよあ躬ハコ
へあくとめとーとあく用ひべくば
小兒と保養よ法ハ香月牛ふ醫士のあくわせ
育草ハラウシよ詳ハラウシよ紀せり考ハラウシよ

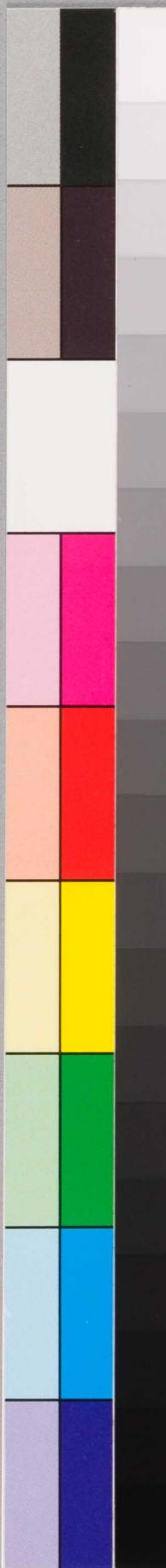


よ暗せり

藏

藏と云す事へいふ曰、藏と云すは氣血の滞り也
一肢中れ瘻とちじきと是の頸腫とのそくか
よ氣血りし肉よ氣と氣とて下立ちよ氣と
遙く瘻滲後痛きの急症又用て消導と
ゆきの末と疾たり速なり瘻滲みとよさせ
元氣と氣とをかよ正傳或同よ藏よ海あひて
補うとつらむれとを藏とて滲と泻や
氣りうて塞とされどもいとハ食補を業浦

ヒキやら一因絶よ筋との熱と相としかる
渾くの脈代利事と大氣の汗と利事され
大方の人代利事なれど大氣の人とすまされ
大渴の人射よ飽ろ人大歎の人代利事なれど
とつら又曰死氣と宣病氣重の人と利すき
れ毛肉絶の戒なり毛皆と深而之補と謂
と爲よつて又治して後即時よ癒とびて
酒よ薬とよ藏とびて食よ飽て即時よ藏
とすばび升醫と病人と右内絶の禁とす
てすまつて藏と用て利す事と害とあるを



業ニ争うる速々りと主刑害と爲りが一
時多く利て痛を甚しきが一又右より禁
戒と犯せハ氣を失ひ物ノガタ氣うちもやく病
状もんとて之にて病氣うるを多くせらす
わくかと津シビリ

衰老ノ人ハ素治癒難夷導引施摩と行キム
色は少少やさんとそわくことづはわくも
毛毛脚筋とあじきたらすらまし縮とゆすら
足筋筋肉と色後の害とゆ

灸法

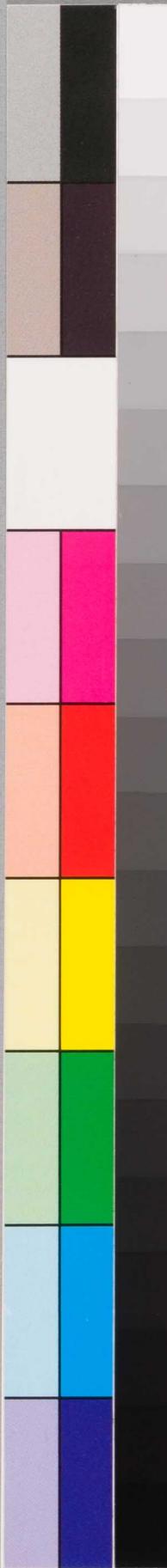
人ノ身よ多とどろひにあらなモ曰ぐの氣ハ之を
天地の元氣ハうけでやとほれ氣ハ陽氣うち陽
氣ハあくら行て火よ風と陽氣ハくも熱
生と陰血と亦元氣より生はれ氣重し難潔
そりやくされど氣を失て病生れ血を亦多
經行火熱とて陽とたとけ元氣と補へ陽
氣重生してほよくやう脾胃細い食とと氣
血めぐり飲食寒寒をびとて陰邪の氣うちも
矣アラク少陽とたとけ陰血とさんずて
病をやどる理ナム

艾葉よりえのくの時日三月二日五月六日小ち
船を長くあらかよニ月二日もよーうるそ
まをあらじ一糸つほもあらそひらきよめよ入
一日月からて後ひろくわざた黙よへひらけび
ウシモジ一糸のなまくのたつねみあら
日よりてもくらのきあつうすう因よ白ふと
くつまや糞くわけとくびとかわくとくらひよ
てあらぬと白くさりだと童うおとへ或はま
入れあらぬと用べ一ヌウタヒたまが傳入
玉用の附解もほとくのいとよわくとよわくと

のこよほり玉ばくじ性よとくの日あべうど
三年以上久くを用ひ一用て煮むる時わふ
可つもうとび一煮よらううりて火の氣をも
あらへや

首もくまくのう腰、腰ひ下野の標茅ひぢらうふと丈至の
名産とし今を多く切てうる古あゆもひあせ
のうくとよから名産の産なりとくとく時もそ
のひらかくへ引ひいて化石の産をばくとそ
景うゑしくの用ゆべ

丈至の天の香木の種類よとび一枝者人



太もも下よりは筋毛立とてあらへ多きとす
レ筋痛にてやせたる人へ少しだしてやさしく揉み
し多かへ不適より一筋痛レツウとてあらへ多きとす
多くとては大ゆてこゝでこゝへ筋血をもじ
筋のりせて甚害ありやせそ虚怯クセイのり人病のそ
しら痙攣クニヤンとてへくらよへ艾灸イフウのトヨ治ひと
多く付或邊のりとはけて人せは灸イフとまほ事
のれくとてあひとれどらくやもくにまくへ
くま六筋六法へ灸とまくまべーがいとほの
灸とへやく乳汗ルハ一回ま多くとく

四葉灸経よ距ヒザと宣股と多々く灸とばす
ソリ肌肉うらきと筋也又距とあと腰と宣股よ灸
せは少くとすよ宜ヨシー

灸よ用よ火ヒとあく臘ヒカルと天日よかやうヒカルと天と下にうけ
て火ヒとヒカル又極ヒカルと白石或シタ臘ヒカルとあて火ヒとす
るや火ヒばみてほ香油ヒハチと燃カムよ点ハタハタと丈焰ヒタハタよも
能ハサハサとつぶハサハサと或シタ油ヒハチとて細燭ヒカルととよとて
灸ヒカルと先取ヒカルよしけまでも多くのから取ヒカルへ
ね柏根搗榆ヒバカキスズ桑竹モクシへ木の火ヒと点ハタハタと用ヒカル

坐リて息ヒを止メめて氣カミを附ハシメて心ハと身ヒと共ヒテに氣カミを
とよ成ルるよ氣カミ一ヒトセ後アフタよ氣カミとシりと是シテよク一ヒトセ
成ル

多シき時ハ風ヒラ空スカイよウするばハすく風ヒラ大ヒラ雪ヒラ後アフタ霧ヒラ大ヒラ
點ヒツ大ヒラ雪ヒラ電ヒラ動ヒラ機ヒラよウもくやシて氣カミとシりと
天ヒツ氣カミ時ハ後アフタ氣カミとシりと有ハ病ヒラはシうシじ氣カミと
もシり時ハりシくよ抱ハグくよ飢渴ヒルよ辟ハグくよ怒ハグり憂ハグの
懈ハグくよシてシ祥ハグの時ハ氣カミとシりと放ハグ房ハグ事ハグの憂ハグあ
音ヒツ氣カミはシ七シ日ヒじシべシきシむシりシあシ日ヒ後アフタ十シ日ヒ發ハグ
とシりと放ハグ

矣シ後アフタ淡シ食シてシ血カミ氣カミ和ハグ平ハグ一ヒト休ハグ一ヒト也シとシし
じ原ヒラ味ヒラ養ハグるシとシくシ大ヒラ念ヒラとシくシ酒ヒラよウ
よ醉ハグべシくシはシ樂ハグ麪ヒラ精ヒラ冷ヒラ酒ヒラ動ヒラ筋ヒラの肉ヒラ化ハグ
くシくシ化ハグくシくシ化ハグ

矣シ法ヒツ古ヒラ書シよウもシとシ根ヒラ下シ不シ可シこれシ火ヒ氣カミを
せシひとシりシ今ヒラ也シ元ヒラ氣カミつシくシ肉ヒラ重シてシ熱ヒラ痛ヒラ
しシ元ヒラ氣カミ弱シ肌肉ヒラ減シ爲シのシ人ヒ丈シ體ヒラ小シかシて
らシへシもシがシ性ヒラ數シ少シ減シもシ著シ體ヒラ痛ヒラ
しシもシ始シばシてシもシあシもシ元ヒラ氣カミアシ氣カミ升シ卫シ血ヒラ

亂瘡乱瘡と多くの氣力に弱し宜よひて
之の教説教説を以て強壯強壯の人と之を
相殺相殺するには教と人の強弱強弱より病
の性性をより多くと取れど一古法より
もくべつに虚弱虚弱の人へ是れ小みてとめり
を一度人一度一日より元二日より元氣元氣をうらまく
一時よきとぞ

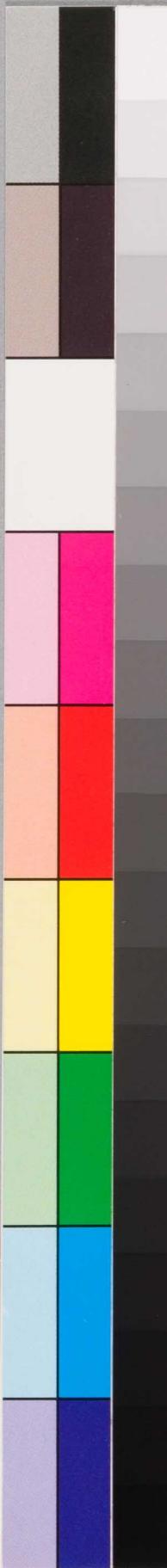
第一後氣瘡發せされと云ふ愈愈自然よ
まくせこも生生てはより氣瘡發せばふる處へ
人車人車とつらべて虚弱虚弱の人へ是れを發すと

一古人氣瘡氣瘡發し法矣矣赤波の葱葱ニえ
薑薑ニシテ汗去汗去て癩癩のあつき腰腰中中にて燶燶トヒ
テ東東のわわとともく歎歎とべとべ又生麻油生麻油とさ
つまほけほけて發發ととむり又灸灸のゆゆ一二壯
灸灸して發發ととり又燒燒魚魚燒燒也也と食食し
て發發ととり事事あり今試試よ燒湯燒湯ととあまうよ
灸灸のととりととよ

ゆも元元へ卯卯の中中のよよとも更元更元よよく
じれて足足よよく痛痛じて行行り毛毛を炙炙とと
穴穴あり毛毛の穴穴とと人の舌舌ととめられよよ

て深山幽居の間山龍の癡鶴或海鷗御墨守
と云ひて也勤よりても病をうりへ死よ
りて或疫病温瘧也かくの時ひては定と教
は室して室温がたせざ時氣よ感とぞは汝
廢たえうる故よ聞へかつて多とれどか物むす
但極多うる前代はさくべー一変に多く變じぐうど
今うせよ天祀碑俞ナと一樹よ多く變じれば無
外とて痛めぐまとして一日よ二日亦自矣
して石忙よつる人あり又三里を毎日一仕つ百日
はけ兼どろんあり是時氣狂ふをも風と退

けよと氣代トシ血をとも船でぬよ一胃氣ひう
と食ばらじむ蓋ありと云醫事よれめて筆
は法がるとこれも体とて多數をゆる人多と云
方湖の事よ禁免の日多とて多日モ宦とじて云
う理を問うて内経よ減免の事と多々之と
禁藏禁免の日はあらへて計免聚英よ人神麗
神の後後世渺事の言たり素同難解よもも
不朽を偏らじよんやとソラノ音法の微恵だ
口季の多じ不ま共よ食よせらるゝ處の脚
度ハ右此脚秋の脚をハ脚尾也聚英よ玉言がく



のやしまくに禁矣ノ日多ニ事假レゴト今
の只血忌日と男子ハ陰の日多ニ彼の日とし
亦是ニ候レゴト之をもく意也ト附候
よきくアリ凡例考の言逐コム信レコト

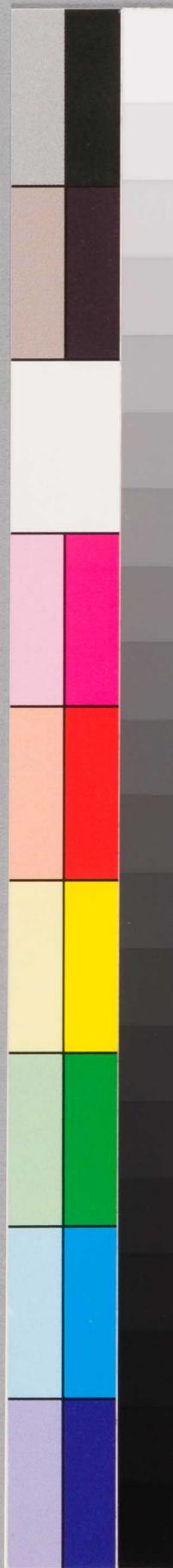
余食方に小児初生ニ病ナシモ後て汗出レテ
ドリキ寒ミレニ病ナシモソリテ癪ハ疎也
小思リ病ナリトカセテ失極シキタヒセハ志ナリ
時ハ除モテ又寒モテ一月撫痛の多ニモ
カニシテ又癪モテ一月撫痛モテ一月病モ
生ニ撫痛甚ニモシテレゴト小児モ

小麦ノ火アヤモト病也ト
項アヤリト部ニ灸レゴト既ナリ老ノ氣の不
足モヘラセヨナリトヤマニ

脾胃虚弱ナリト食滞モヤシク泄濁トヤシク
人之陽氣不足ナリ殊ニ灸治ニ宣レ火氣と
坐氣と補ヘ脾胃ノ陽氣發生トシカシテ
シテシテカリ食滞ノビ食也ニミネ氣ナリ無ニ
八月より火也ト脾俞腸脇三里ニ灸モゴト
能幹火色タタリト灸モト一脾ノ俞胃ノ俞モ
ウタリト灸モゴト火也ト脾俞モ火アリ脾胃虚

一食湯をやどく人毎年二八月寒とて腰
中もあつて亭子等守一す分も一うらぐ
矣とて寒極のえかく大水に氣力よほよで
虚弱の人老衰の人寒物かゆて壯敷を多く
かうべても花半に寒さより氣虛弱の人を
一日よ一元二日よ一元四日よ五日寒とて一時よ
多く寒痛を患へず日數まで寒してとは
多々寒せへ乳血となるもん
一切の寒氣或寒厥れき一たるふを呈ひ大抵の丸也

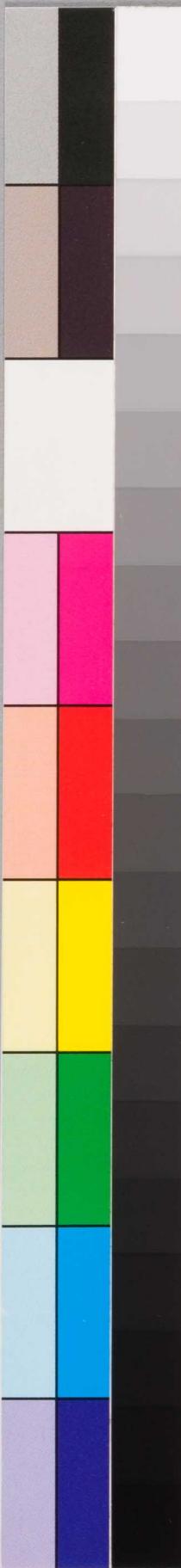
ノ内丸城主事惣葉やとあよ五壯セ仕候とて
老の人に下部よ乳とくねやよくして
乳母や多く寒され乳とく下部筋
室膚よから脚御よくねくべ多く寒と
べくとくよと部と脚よ多く寒とくびに中
部よ寒とく小引て一日よ一元或二元一元
よ十仕ぞうりをどへ毎日寒じて仕敷をき
ねて敷十仕よづくべ一時よ多く寒とくす
べく乳の外で人下部のひくえよくして
毛ようち乳升る事やとくとく人毛寒よく



まちるへり一際よきあくすてはり身のとを
病志氣よひてつねりのゆうてはりと
ぐくへりあり切丈と見ゆて紙と多く一すへり
そうちしたてよみりてりとあるとて名ニシム
様よしきてあくのべを紙とてせんじゆとてのり
やしつけ自ふか一般とてもとおとがよ切て一
方ふかよ一方ふかよあどぐわう方の下にあ
つて紙と切てつけ自ふかして裏紙と裏紙とて
造のうとて下よけて裏とれへ弊痛甚しうき
てこくへやとへ魚筋つ下よのうと付くよ丈の下よ

ひつけどすらりう紙の切口よせりきの下にづ
きつまへ下まきりとばくうりうきとふくふ弊
痛甚しうきとてひのうりうきりうきへゆ
しゆきとひゆう丈とく弊痛甚しうきとて
申れそしそに徹とく

癰疽及瘍瘻瘻瘻の初發よすく弊とれれ絞れ
ぐくびくと消散とうじくつた毒うれくて卑
く愈やく癰疽とよめくつるよハキヨリ糞を
をくじて三里氣海矣とごーん脚筋也後七
日とよきに矣とくとひ夷法三周方坐法方



書よせり醫よ因て象とべ
シジタウキ
タ休慶紀よ年はよ象とべとまう

養生訓ノ後紀

右よもよせり而の古人が言ひやもけ古
人代を成うけてわひうそしや又老害よ
モリれ而多うものう従もくわく
ち腔説とつどももくにけりぬ毛蟲生れ大
きなむら條固の根から年へ既收くと
一係書の道よ忘アん人ハ多く古人の書
をもんてあそびしるを通して毛蟲固釋
ナれるすがもそれが毛蟲が也しがく
愚生首わうくて書をよろづ時那書れ

内書生の御を務める古株をうり先て
門客よりの手を門前をわざとし若
けりと頤生輝要と云奉坐よ志ほん
人考くべからずあくまくあくまく
せむれども

八十四翁貝原駿信書

正徳三癸巳年正月吉日

養生訓卷第八 終 永田調兵衛版行

